

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい(東・西ユニット)		
所在地	湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	平成24年1月24日	評価結果市町村受理日	平成24年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2278200155&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3月に開設6周年を迎える当施設は、職員もほぼ定着しているため、入居者様と職員が顔なじみの関係となっている。また、入居者様も入居後年数を重ねているため、状態が重度化している方もあるが、前回外部評価以降、2度の看取りを経験したためか、職員のケアへのモチベーションは高く、真剣で深い観察と対応が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR新居駅に近い静かな住宅地に立地している。小規模多機能所を併設し、事業所合同での催しも多い。例えば職員による劇発表やボランティアによる披露イベントがおこなわれ、ユーモアあふれる体験に利用者の笑顔も多くみられる。事業所では行動を制約することなく本人本意の生活を実現できるように取り組み、深夜早朝の徘徊でも制止したり連れ戻すことなくじっくりと付き合っている。また今年度は事業所として初めて看取り介護をおこなった。職員を対象に面接形式での研修をおこない、メンタル面のサポートがされたことで「私が夜勤の時に遊んでも大丈夫」と言えるほどの体制が整ったという。職員の経験が増えたことにより、重度認知症の利用者の受け入れも実現させていて積極的な姿勢が感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は地域に根ざそうとするものを策定しており、運営推進会議などを通して実践している。	理念は共用空間に掲示し、運営推進会議の資料にも毎回掲載している。理念に謳われている「地域住民として」「安心と安全」の精神に基づき、職員は地域との橋渡しを意識したり、防災についての考察を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	お祭りの太鼓台の引き廻しや毎月1回の「サンシティ新聞」の回覧、自主防災会の施設見学などをしていただいている。今年度は地元子ども会を招き、交流会を行ったり、隣町町内会にも新聞の回覧を始めた。	事業内容などを紹介している「サンシティ新聞」を毎月発行し自治会で回覧している。さらに今年度からの取り組みとして、隣の町内会にまで回覧のエリアを広げている。今後は、町内会の行事にも職員が参加していくことが目標となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年8月の「サンシティ夏祭り」には、警察署による講演会「お年寄りが巻き込まれる犯罪」を開催し、地域住民の皆様をお招きした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は初めて年6回の会議を行い、地域の各方面の皆様方のご出席をいただいている。	「地域コミュニケーション会合」という名称をつけて開催することで、地域と一緒にの会合という意識を高めている。今年度は新たに、運営推進会議に子ども会を呼んで交流会を開催した。利用者だけでなく、参加した子ども会からも好評を博したという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から緊密に連絡を取り合いながら、行政の考え方も積極的に聞くよう努めている。また本年は、市が主催する家族介護支援事業に参加し、自宅で介護を行なう市民に対し、講演会を行なった。	市との協力関係については運営推進会議への参加の他にも、日頃からグループホーム連絡会の会合などを通じて連携している。市主催の介護車支援事業では「防災と高齢者介護」についての内容で2時間にわたり講師を務めるなど、市民への啓発に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。建物自体の施錠はしていないが、事業所が2階で階段があるため、見守りにくい時間帯など危険があるときは、2階入り口に限り簡易式の施錠をすることがある。	施錠とは言えないほどの簡易ロックにより、2階出入口の安全を図っている。また1名の利用者がつなぎパジャマを使用しているが、事前に家族と協議し文書で同意を得ている。利用者の行動を制約する場合や、スピーチロックについては職員間で話し合いをおこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや申し送りなど、タイミングのあるごとに啓発する機会を持ち、また、普段の業務中の会話の中でも「これは虐待ではないか」などの話をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて管理者が中心となって利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時には、契約書類に従い時間を掛けて説明し、不明な点については随時質問をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席要請、事業所入り口にご意見箱の設置などに取り組んでいる。	年度初めの運営推進会議に案内したものの、家族会を開催するまでには至っていない。家族に対しては、個々に一筆箋をつけて生活の状態を伝えたり、面会の際には家族の意向を感じ取ることができるようにしている。	医療や、防災、消耗品についてなど課題に応じて家族会を開催し、継続できるように期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送りノートは、提案や改善意見を自由に書けるものでもあり、ミーティングでは広く意見を求めている。	職員に各々担当を任命することにより、主体性を育てている。管理者は「働きやすい職場で、少しでも長く勤務してもらえるように」と、受容の訓練を開催するなど職員のメンタルケアにも配慮している。取り組みの成果もあつてか、今年度は離職も少ない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は実績に応じて就業条件を整備してくれている。また管理者は勤務表について、職員の希望になるべく添えるように工夫して組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については計画的に受けられるように機会の確保をしていると共に、社内研修として所属していない方のユニットでの勤務を体験するなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度から市内4グループホームが集まる会合を定例化して、相互交流をしているが、職員同士の相互訪問は人手に余裕が無い関係から、行なえていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人の話を丁寧に聞き、丁寧に答えることから始めて、信頼関係を早期に築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向、意見を聞いている。以前違うサービスを利用していた家族については、そのサービスとグループホームとの違いを説明するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に合った支援方法をご提案し、納得した上でご利用いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人と話し合い、信頼関係を下に出ることが出来るよう支援している。しかし、介護者側に「介護慣れ」が時々出てしまうと、やりすぎてしまうことがあるので、そうならないように気持ちを持ち続けることに苦労している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と良く話し合いをする中で、家族と施設はその人にとって「一つのチーム」であることを話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会については、いつでも出来るようにしている。	外出レクリエーションでは、地元の神社に行ったり入居者の近所に行く事で馴染みの関係が継続できるように取り組んでいる。例えば自宅近くを通りかかった際には、「寄っていきましようか？」と声を掛け利用者の希望を叶えられるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの話職員が架け橋になったり、ゲームを通して一体感を出したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればいつでも応じる態勢は出来ているが、あまり相談を受けた事例は無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人に合った暮らしについて、ミーティングなどで職員同士話しあっている。	毎回ミーティングで利用者全員の意向や課題を分析し直している。特に言動やADLの変化やを把握し検討することで一人ひとりにあった生活が実現できるようにしている。「2ユニット全体で、全ての利用者を観る」というスタイルでじっくりと利用者の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントした本人の生活歴を全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があったときなどは、ユニットごとの申し送りノートによって全員が早く正確に把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの意向をモニタリングしているが、日々少しずつ変わる本人の状況については介護計画で対応しきれない部分もあるので、ユニットごとの申し送りノートにて微調整をしている。	ミーティングでの協議内容を基に、個々の課題に応じた計画を作成している。生活課題によっては模索を繰り返すこともあるが、職員から聞き取った意見を反映しながら介護方針を決めている。	西ユニットでは月によっては3回以上と頻繁にミーティングを開催している。管理者も気づかなかった点が計画作成に反映されたり、介護計画作成が観察力の向上に役立っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については全員が行えるようにしており、いつもと違う言動や介護に必要なキーワードについても記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用サービスを行なっている。また、家族の意向に沿い、医師の診断のもと、居室にてマッサージ治療を受けている方が居る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本が好きな人は近くの市立図書館で本を借りるなどしている。また昨年、隣町町内会からお声掛けを頂き、津波避難訓練に車椅子で参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関があるが、希望者については別の医院に受診している。	近所に事業所の協力医があり、受診の際には職員が同行している。協力医とは24時間の連絡体制が整っており、緊急搬送の病院についても家族から確認をとっている。家族の支援能力に応じて職員が受診に同行することも多く、在宅時からのかかりつけ医とも協力関係にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内看護師にいつでも相談できる状況にあるが、パート勤務であり、現実的にその役割には限界があると感じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときには、時々見舞いに行ったり病院側と情報を交換することにより、退院後の支援のあり方を随時検討している。(職場内看護師も参加)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢な方や終末期に近いと思われる方のご家族に対しては、施設から今後の方針について話し合いをしようと話題にしている。	看取りの支援計画書を作成し、主治医からの意見、家族からの意向、施設として現実的な支援についての提案をおこない合意を得ている。ただし、最初に決めた方針を堅固に進めることなく、意向の変化や心身の状態に応じて柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	22年12月と23年1月の2回に分けて、普通救命講習を実施。全員参加した。また、実際に事故がおきたときに書く事故報告書の全員閲覧を行い、他職員の対応について反芻している。24年1月11日には急変者に対して人工呼吸、心臓マッサージを実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域自主防災会、消防団の施設見学を実施。今年度は津波避難訓練も行った。	今年度は新たに「津波避難訓練」を実施し、外に逃げるのではなく2階に上がる避難をおこなった。また「トリアージ」など実践に即した訓練もおこなっている。事業所の隣に自主防災の倉庫があるため、自主防災会の訓練の際には事業所に寄ってもらい、事業所内部の見学を勧めている。	年1回程度、地域の防災訓練への参加が継続されることを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に気持ちになった声掛けをしている。	利用者の気持ちを受容し、共感的な理解に努めている。例えば「帰りたい」と言う利用者に対して「帰りたいね」と返すことで落ち着きがみられた例もあるという。また、利用者の尊重としてヒヤリハットをその都度記載することにより、安全な見守り連携が取れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を増やしたり、行為自体を無理強いしないなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手間のかかることでも、その人の希望やペースを優先しているが、すべての場面において完璧にそれをするのは非常に難しく、苦慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを把握して、希望に添えるよう声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは入居者の要望をなるべく取り入れている。食器の拭き上げを一緒に行っている。	食事担当に一部権限を委譲することで、きめ細かで安定したメニューを提供している。また今回初めて「新年会」を開催した。あえて「ただただ」と3~4時間かけて寿司やたこ焼き、オードブルなどを飾ってカラオケしながら食事したところ、利用者から大好評だったという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じて食事形態を変えたり、水分についてトロミをつけるなどしている。また水分摂取量について細かく記録している。食事の前には首の運動や発声を行い、嚥下力の低下を防いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人によって毎食後でない場合があるが、誘導している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でない方については、排泄パターンを把握し、時間によって誘導している。	誘導の仕方について利用者ごとに工夫し、尊厳を保ち失敗のないように排泄支援をおこなっている。例えば放尿のある利用者には手間を惜しまず誘導することで、共用空間での排泄がなくなったこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜食を多く取り入れ、便秘を予防すると共に、体操や歩行など運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入りたい方は入っている方もある。	1日あたりおおむね3人ずつを目安として入浴を提供している。また希望があれば毎日入浴でき、季節ごとにゆず湯、菖蒲湯などもおこなっている。入浴は職員と利用者がマンツーマンになれる貴重な機会として、普段は出来ないじっくりとした会話を利用者は楽しんでいる。	西ユニットではシャワー浴する利用者も多く、利用者ごとの希望や状態を取り入れて入浴を提供している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後のゆったりした時間には、入床の声掛けをしている。希望者には休んでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を介護記録のファイルに入れ、いつでも見られるようにしており、看護師とも連携しながら変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った支援をなるべくしているが、施設としての限界を感じる時もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々自宅に帰られる方がある。また季節の良いときは、月1回ペースで外出レクリエーションを行っている。	近所に公園や図書館があるため、利用者は散歩に出掛けて本を借りに行く事もある。身体的に外出が困難になってきている事が課題で、外出イベントの際には法人内でスタッフを募り、協力して外出につなげている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している人は居ないが、買いたいものがあれば預かっている小遣いから買うことができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら手紙を書こうとされる方は居ない。年賀状などを家族に出すときは記入をお願いしている。電話については、家族の同意があれば出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	製作物や季節のものなどを壁に貼ったりして、生活感を出している。	共用空間では利用者が一生懸命作成したという龍の制作物や吊るし雛が飾られている。東ユニットでは、設置されている天窓の西日を防ぐために今年度はブラインドを設置した。その結果安定して温度管理できるようになった。	生活空間ではアルコール消毒を多めに配置し、きめ細かい衛生管理を心掛けている。西ユニットでは、行事の写真を掲示したり、書道の作品などが展示されていた。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置具合、ソファ、マッサージ器の活用などでなるべくその人の居場所ができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく生活感が出せるよう、1日2回の体操、歌の時間などを行っている。家具については基本的に家族に決めていただいているが、地震の時などを考慮してプラスチック製のシンプルなものが多い。	地震に備えてプラスチック製の家具を奨励しているが、使い慣れたものがあればできるだけ持ち込んでもらうようにしている。東ユニットでは、入居中に作成したカードを飾ったり、色紙で飾り付けをしている居室もみられた。	地震に備えてプラスチック製の家具を奨励しているが、使い慣れたものがあればできるだけ持ち込んでもらうようにしている。西ユニットでは使い慣れたアンティーク時計を飾っていたり、マットレスを敷いて、布団敷きで生活できる居室もみられた。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物をなくし、手すりを多く配置して安全に配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は地域に根ざそうとするものを策定しており、運営推進会議などを通して実践している。	理念は共用空間に掲示し、運営推進会議の資料にも毎回掲載している。理念に謳われている「地域住民として」「安心と安全」の精神に基づき、職員は地域との橋渡しを意識したり、防災についての考察を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	お祭りの太鼓台の引き廻しや毎月1回の「サンシティ新聞」の回覧、自主防災会の施設見学などをしていただいている。今年度は地元子ども会を招き、交流会を行ったり、隣町町内会にも新聞の回覧を始めた。	事業内容などを紹介している「サンシティ新聞」を毎月発行し自治会で回覧している。さらに今年度からの取り組みとして、隣の町内会にまで回覧のエリアを広げている。今後は、町内会の行事にも職員が参加していくことが目標となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年8月の「サンシティ夏祭り」には、警察署による講演会「お年寄りが巻き込まれる犯罪」を開催し、地域住民の皆様をお招きした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は初めて年6回の会議を行い、地域の各方面の皆様方のご出席をいただいている。	「地域コミュニケーション会合」という名称をつけて開催することで、地域と一緒にの会合という意識を高めている。今年度は新たに、運営推進会議に子ども会を呼んで交流会を開催した。利用者だけでなく、参加した子ども会からも好評を博したという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から緊密に連絡を取り合いながら、行政の考え方も積極的に聞くよう努めている。また本年は、市が主催する家族介護支援事業に参加し、自宅で介護を行なう市民に対し、講演会を行なった。	市との協力関係については運営推進会議への参加の他にも、日頃からグループホーム連絡会の会合などを通じて連携している。市主催の介護車支援事業では「防災と高齢者介護」についての内容で2時間にわたり講師を務めるなど、市民への啓発に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。建物自体の施錠はしていないが、事業所が2階で階段があるため、見守りにくい時間帯など危険があるときは、2階入り口に限り簡易式の施錠をすることがある。	施錠とは言えないほどの簡易ロックにより、2階出入口の安全を図っている。また1名の利用者がつなぎパジャマを使用しているが、事前に家族と協議し文書で同意を得ている。利用者の行動を制約する場合や、スピーチロックについては職員間で話し合いをおこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや申し送りなど、タイミングのあるごとに啓発する機会を持ち、また、普段の業務中の会話の中でも「これは虐待ではないか」などの話をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて管理者が中心となって利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時には、契約書類に従い時間を掛けて説明し、不明な点については随時質問をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席要請、事業所入り口にご意見箱の設置などに取り組んでいる。	年度初めの運営推進会議に案内したものの、家族会を開催するまでには至っていない。家族に対しては、個々に一筆箋をつけて生活の状態を伝えたり、面会の際には家族の意向を感じ取ることができるようにしている。	医療や、防災、消耗品についてなど課題に応じて家族会を開催し、継続できるように期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送りノートは、提案や改善意見を自由に書けるものでもあり、ミーティングでは広く意見を求めている。	職員に各々担当を任命することにより、主体性を育てている。管理者は「働きやすい職場で、少しでも長く勤務してもらえるように」と、受容の訓練を開催するなど職員のメンタルケアにも配慮している。取り組みの成果もあつてか、今年度は離職も少ない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は実績に応じて就業条件を整備してくれている。また管理者は勤務表について、職員の希望になるべく添えるように工夫して組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については計画的に受けられるように機会の確保をしていると共に、社内研修として所属していない方のユニットでの勤務を体験するなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度から市内4グループホームが集まる会合を定例化して、相互交流をしているが、職員同士の相互訪問は人手に余裕が無い関係から、行なえていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初は特に心配なので、ご本人の意見をよく聞き、楽しい雰囲気での生活が始められるよう気遣っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることは職員全員で話し合い、安心につながるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に合った支援方法をご提案し、納得をいただいた上で生活をしていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のライフスタイルを崩さずに過ごせるよう、見守りと介助の見極めをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診時の家族との会話、サンシティ新聞での報告などを通して、日常の暮らしを伝えており、その話の中で介護のヒントや家族の希望などをいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会については、いつでも出来るようにしている。	外出レクリエーションでは、地元の神社に行ったり入居者の近所に行く事で馴染みの関係が継続できるように取り組んでいる。例えば自宅近くを通りかかった際には、「寄っていきましようか？」と声を掛け利用者の希望を叶えられるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡しになって話が出来るように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればいつでも応じる態勢は出来ているが、あまり相談を受けた事例は無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずはコミュニケーションにより本人の思いの把握に努め、その後、職員同士で検討している。	毎回ミーティングで利用者全員の意向や課題を分析し直している。特に言動やADLの変化やを把握し検討することで一人ひとりにあった生活が実現できるようにしている。「2ユニット全体で、全ての利用者を観る」というスタイルでじっくりと利用者の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントした本人の生活歴を全員が把握している。ご家族来訪時には、今の暮らしやこれまでに暮らしについてお互い情報交換が出来るよう、家族とのコミュニケーションも重要と捉え、怠らないようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや摂食、摂水量などの記録を行なうと共に、日々の体調との違いや、メンタルバランスの観察などに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの意向をモニタリングしているが、日々少しずつ変わる本人の状況については、ケアプランで対応し切れない部分もあるので、ユニットごとの申し送りノートで微調整したり、ミーティングを開催したりしている。	西ユニットでは月によっては3回以上と頻繁にミーティングを開催している。管理者も気づかなかった点が計画作成に反映されたり、介護計画作成が観察力の向上に役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言った言葉や行なった行動について、介護のヒントになりそうなことは記録を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用サービスを行なっている。また、脳出血性認知症の方について、本人とご家族の意向に沿い、通院によるリハビリを行なっている方がいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本が好きな人は近くの市立図書館で本を借りるなどしている。また昨年、隣町町内会からお声掛けを頂き、津波避難訓練に車椅子で参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関があるが、希望者については別の医院に受診している。	近所に事業所の協力医があり、受診の際には職員が同行している。協力医とは24時間の連絡体制が整っており、緊急搬送の病院についても家族から確認をとっている。家族の支援能力に応じて職員が受診に同行することも多く、在宅時からのかかりつけ医とも協力関係にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内看護師にいつでも相談できる状況にあるが、パート勤務であり、現実的にその役割には限界があると感じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときには、時々見舞いに行ったり病院側と情報を交換することにより、退院後の支援のあり方を随時検討している。(職場内看護師も参加)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢な方や終末期に近いと思われる方のご家族に対しては、施設から今後の方針について話し合いをしようと話題にしている。	看取りの支援計画書を作成し、主治医からの意見、家族からの意向、施設として現実的な支援についての提案をおこない合意を得ている。ただし、最初に決めた方針を堅固に進めることなく、意向の変化や心身の状態に応じて柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	22年12月と23年1月の2回に分けて、普通救命講習を実施。全員参加した。また、実際に事故がおきたときに書く事故報告書の全員閲覧を行い、他職員の対応について反芻している。24年1月11日には急変者に対して人工呼吸、心臓マッサージを実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域自主防災会、消防団の施設見学を実施。今年度は津波避難訓練も行なった。	今年度は新たに「津波避難訓練」を実施し、外に逃げるのではなく2階に上がる避難をおこなった。また「トリアージ」など実践に即した訓練もおこなっている。事業所の隣に自主防災の倉庫があるため、自主防災会の訓練の際には事業所に寄ってもらい、事業所内部の見学を勧めている。	年1回程度、地域の防災訓練への参加が継続されることを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務内での言葉掛けや対応など、不適切な場合はその都度お互いに注意し合い、特にプライバシーに関わることには細心の注意を払っている。	利用者の気持ちを受容し、共感的な理解に努めている。例えば「帰りたい」と言う利用者に対して「帰りたいね」と返すことで落ち着きがみられた例もあるという。また、利用者の尊重としてヒヤリハットをその都度記載することにより、安全な見守り連携が取れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせた声掛けを心がけ、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその時の状況に合わせ、出来る限り希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋が施設に来て散髪を行っている。衣類などもご本人の好みを聞き入れるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓で同じ食事をしている。時には食器の片付けなども一緒に行なうことがある。	食事担当に一部権限を委譲することで、きめ細かく安定したメニューを提供している。また今回初めて「新年会」を開催した。あえて「だらだら」と3~4時間かけて寿司やたこ焼き、オードブルなどを飾ってカラオケしながら食事したところ、利用者から大好評だったという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、摂水量を記録し、トロミ粉なども使いながら過不足の無いようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に合わせて、口腔ケアの声かけ、介助を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合った声掛けや誘導を行なっている。	誘導の仕方について利用者ごとに工夫し、尊厳を保ち失敗のないように排泄支援をおこなっている。例えば放尿のある利用者に手間を惜しまず誘導することで、共用空間での排泄がなくなったこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などの運動や摂水量の把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば聞けるようにしている。	1日あたりおおむね3人ずつを目安として入浴を提供している。また希望があれば毎日入浴でき、季節ごとにゆず湯、菖蒲湯などもおこなっている。西ユニットではシャワー浴する利用者も多く、利用者ごとの希望や状態を取り入れて入浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床前に居室を暖めたり、湯たんぽを使って心地よく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が入居者の状態と服薬内容を把握し、看護師と協働して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレクリエーションをとおして、楽しみのある生活が送れるようにしている。ただ、出来ることが異なるため、出来る人が出来ない人を揶揄したり罵倒したりすることがあり、職員のひとつの悩みでもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に何度か散歩に誘い出してくれる家族がいっぱいいる方がいる。季節が良い時には、月1回程度外出レクリエーションを行っている。	近所に公園や図書館があるため、利用者は散歩に出掛けて本を借りに行く事もある。身体的に外出が困難になってきている事が課題で、外出イベントの際には法人内でスタッフを募り、協力して外出につなげている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している人は居ないが、買いたいものがあれば預かっている小遣いから買うことができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら手紙を書こうとされる方は居ない。年賀状などを家族に出すときは記入をお願いしている。電話については、家族の同意があれば出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように、行事の写真や製作物を壁に貼るなどしている。	生活空間ではアルコール消毒を多めに配置し、きめ細かい衛生管理を心掛けている。西ユニットでは、行事の写真を掲示したり、書道の作品などが展示されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろげるように日当たりのよいところにおくなどし、常に入居者様の心地よい居場所作り心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドサイドに家族の写真や花の写真、好みのものをおくなど、今までと変わりなく過ごせるようにしている。	地震に備えてプラスチック製の家具を奨励しているが、使い慣れたものがあればできるだけ持ち込んでもらうようにしている。西ユニットでは使い慣れたアンティーク時計を飾っていたり、マットレスを敷いて、布団敷きで生活できる居室もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を忘れてしまう方のために、居室扉に名前を貼ったり、トイレに看板をつけたりしている。必要であれば、声掛けや誘導を行なっている。		